

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 事業提案書

【申請団体】

申請団体名	いいたてまでの会
(協議体の場合のみ) 代表団体名	
(申請団体の) 代表者の職・氏名	幹事長 佐藤 彌右衛門
協議体構成団体①	
協議体構成団体②	
協議体構成団体③	
協議体構成団体④	

【団体情報】

団体ホームページ	<a href="http://iitate-madei.jp/">http://iitate-madei.jp/</a>
又は公開予定日	

※情報公開を行っておらず、かつ公開する見込みのない団体については応募できません。

1 事業名

いいたてミュージアム-までの未来へ記憶と物語プロジェクト-2015

2 事業の目的及び地域課題（200字以内）

※ 今回申請する事業を実施することにより解決を図ろうとする、東日本大震災、若しくは、原子力災害を契機とした地域課題を記載下さい。

避難生活の長期化により、コミュニティの崩壊、記憶の風化、限界集落の危機と、飯舘村民が抱えている状況は極めて深刻である。本事業の継続により、主役となる村民の心の復興と村の歴史の再生を促し、県内外に飯舘村、さらには福島県の現状を発信し続けることで、理解や支援の輪の拡大、喪失したアイデンティティの復活に繋げる。

3 事業の必要性（200字以内）

※ 当該事業を実施するにあたり、そのニーズを把握している場合は、具体的に記載願います。  
長引く避難生活による焦燥感に加え、往復2時間のマイクロバス通園・通学の大変

さから、年々就学児童・生徒数が減って来ている現状に、村の消滅の危機を感じながら生活している村民にとって、故郷の歴史や日常を記録し、自ら参加する事で自分たちの文化に誇りを持つことは、この困難を乗り越え、コミュニティ、アイデンティティを維持するために不可欠であると痛感する。

#### 4 事業内容

##### 【実施取組1】

(取組内容がわかる見出しを記載する) しいたてミュージアム巡回展、勉強会

主な活動地域：福島市、東京都他

実施期間：H27/7月～H28/1月末

##### 【取組内容】(100字以内)

※ 上記2の地域課題解決、及び、上記3の事業の必要性のため、どのような事業を実施するのか具体的かつ簡潔に記載願います。

しいたてミュージアムを様々な場所で見てもらえるように、収集物・キャプション・パネルなど展示に必要なものをパッケージ化し貸し出す。また、あらゆる方面から飯舘村を知る機会とするための勉強会を開催する。

##### 【実施取組2】

(取組内容がわかる見出しを記載する) 取材活動

主な活動地域：飯舘村、福島市他

実施期間：H27/6月～H28/3月末

##### 【取組内容】(100字以内)

※ 上記2の地域課題解決、及び、上記3の事業の必要性のため、どのような事業を実施するのか具体的かつ簡潔に記載願います。

飯舘村民の自宅を訪問し、自分にとって一番古いもの、大切なもの、歴史的なものの話を聞かせてもらう。その話にまつわるもので頂けるものをスタッフがお預かりしてモノを収集し、整理カードを作って保管する。

※実施取組に合わせて、数を追加してください。

#### 5 事業効果 (各200字以内)

※ 当該事業を実施することにより、どのような効果が生まれるか具体的に記載してください。

コミュニティ分断とアイデンティティの喪失に対して、住民の心の復興と地域の歴史の再生を促す継続性の高いプロジェクトを、新規性の高い文化的手法で発信することにより、県内外の団体との連携・協力が可能になって組織力強化に繋がる。受け身ではなく、被災者が聞き取り調査・収集に参加することによって、飯舘村での生活・日常の記憶を自ら呼び戻し、飯舘村民・福島県民としての誇りを取り戻すきっかけとなる。

【情報発信力】復興関連の取組（イベント等）を事業の主な目的としている場合のみ記載

## 6 実施団体の運営力強化（各200字以内）

【人材育成の観点】※活動を通じた外部専門家の招聘や研修の実施により、団体スタッフの専門的知識やノウハウの獲得が見込まれる点について記載してください。

収集物の保管や展示に関しては、福島県立博物館の専門スタッフ（当会会員）から、聞き取り取材に関してはアナウンサー（当会事務局長）から実践を通してそれぞれレクチャーを受け、外部専門家等による勉強会での多岐に亘る情報収集と知識の習得により、事業スタッフにとって、刻々と変化する状況とニーズにいち早く対応するためのさらなるスキルアップが見込まれる。

【ネットワーク形成の観点】※活動を通じて復興・被災者支援に関する地域間、支援団体間の情報共有やノウハウの移転等を実施するものについて記載してください。

村の文化祭での「いいたてミュージアム巡回展」では飯舘村、飯舘村教育委員会と連携協力。勉強会や県外の巡回展に関しては福島県立博物館、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトと情報共有をして連携する。また、取材涉外活動においては一般財団法人までい文化事業団からの情報提供、紹介等で連携。多摩美術大学芸術人類学研究所とは事業発案時からの協力、連携を保つ。

## 7 事業スケジュール（月ごと、箇条書き）

月	実施取組 1	実施取組 2
6月	展覧会	取材、取材内容と収集物の整理
7月	いいたてミュージアム勉強会	取材、取材内容と収集物の整理
8月	収集物燻蒸作業	取材、取材内容と収集物の整理
9月		取材、取材内容と収集物の整理
10月	いいたてミュージアム巡回展	取材、取材内容と収集物の整理
11月		取材、取材内容と収集物の整理
12月	いいたてミュージアム巡回展・勉強会	取材、取材内容と収集物の整理
1月	いいたてミュージアム巡回展・勉強会	取材、取材内容と収集物の整理
2月	テキスト冊子制作	取材、取材内容と収集物の整理

3月	テキスト冊子完成	取材、取材内容と収集物の整理
----	----------	----------------

※表が足りない場合は、適宜追加してください。

## 8 事業の実現性について（200字以内）

※ 当該事業が計画倒れとならないよう、現時点で確定していることや、これまでの経験・実績などを踏まえて当該事業の実現の可能性を具体的に記載してください。

7月には、前年度の神戸巡回展の来場者（神戸在住）6名が福島市を訪問し、第1回勉強会に参加する予定。また、1月の勉強会参加者（東京在住）からは県外巡回展、取材活動に協力したいとの申し入れもあり打ち合わせを実施した。取材活動に関しては、取材対象者からの紹介によるリレー形式を取り入れる等の方法で回数を増やすことと、別事業で交流のある中学生を対象にして年齢層の幅を拡大していくことも計画している。

## 9 事業終了後の展開・発展性（200字以内）

※ 仮に平成27年度補助金に採択された場合、平成28年度以降の事業展開について記載してください。

本事業は、将来的には村民自らの手で継続していく事が理想である。そのためにも、今後聞き取り調査等を通じて、コミュニティが分断している村民同士の交流の機会を増やし、質的にも一方的支援ではなく、共通の目的に向けた相互協力的な関係を構築していきたい。また、県内外の支援を希望している個人・団体との連携・協力の受け皿となり、組織力強化に努めていく。

## 10 事業の先進性・普及性（200字以内）

※ 震災を契機とした課題に対する取組であり、申請した取組がどのような先進性を有するか、どのようにして他のモデルとなるかを記載してください。

自分達の地域のミュージアムを自分達を中心となって作り上げる。その過程を大切にすることで新たな連携と交流を生み出すことができる文化事業であり、被災地に限らず過疎集落での展開も可能。学校の地域学習はもちろん、高齢者の心のケアなどにも活用できる。収集した資料の内容・点数・展示方法などをフレキシブルに変容・活用することができるモバイルミュージアムとなる。福島の現状を発信するにあたり、その可能性は効果が高い。

## 11 特記事項（アピールポイントなど）（200字以内）

※ 特に説明しておきたい事項、アピールポイントありましたら記載してください。

震災から5年目に入り、飯舘村では物を処分する動きも見え始めている。また、故郷に帰る日を待つ住民、新天地を求める住民との間には交流が途絶え、次第にかつてのコミュニティの特性が失われていく危機的状況にある。震災以前、震災後、現在の状況を記録する上で、記憶の風化は大きな脅威である。大切な記憶、資料が日々消えていく中、福島の被った災害と再生を記録し、県内外にそして未来に伝えるため、本事業を是非継続したい。

## 12 その他の助成金について

① 当該申請事業について、他の助成金も受けている。 答えが「はい」の場合のみ②へ	はい
② 他の助成金を受けているが、当該申請事業と明確に区分することができる。	はい

※ 他の助成金を受けた事業と明確に区分することができない場合は応募できません。

第3号様式（第4条関係）

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 収支予算書

申請者名 　　いいたてまでの会　　

【支出の部】

（単位：千円）

区 分	平成 年度 予 算 額	明 細
人件費（共済費を含む）	1,140	スタッフ給与（120/月×1名×9.5ヵ月=1,140）
報償費	120	勉強会講師料（20/回×2名/回×3回=120）
旅費	192	講師旅費（交通費：東京⇄福島 18×4名=72） スタッフ旅費（巡回展打合せ、展示準備等交通費・宿泊費：120）
需用費 a1+b1+c1	754	
消耗品費 a1	360	巡回展用資材等（250） 勉強会会場設営用資材・消耗品（20/回×勉強会3回=60） 封筒、記録用媒体等消耗品（50）
燃料費 b1	0	
印刷製本費 c1	394	チラシ印刷費（5,000枚）101 ※A4、片面、カラー 巡回展用リーフレット（2,000枚）68 ※A4変形、二つ折り、カラー 取材テキスト冊子（0.5/部×1,000部×0.45=225） ※A4変形、全カラー、30P
役務費 a2+b2+c2	80	
通信運搬費 a2	80	チラシ郵送料（3回 30） 収集物燻蒸用・巡回展用運搬費（50）
手数料 b2	0	
保険料 c2	0	
使用料及び賃借料	0	
委託料	531	印刷製本物デザイン料（481） 収集物写真撮影（1回 50）
A. 支出合計	2,817	千円未満切捨

【自己資金の部】※自己資金は支出合計の2割以上が必要です。

（単位：千円）

区 分	平成 年度 予 算 額	明 細
自己資金（負担者名）	564	

	寄付金等	564	会員年会費、一般寄付金
その他収入		0	
	事業収入	0	
B. 自己資金合計		564	千円未満切捨

**【補助金交付申請額】** 2,253千円 (A. 支出合計－B. 自己資金合計)

- 注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。
- 注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。
- 注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の使途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、使途の区分が分かる資料を添付すること。